

「今年こそ全国制覇を」



スタンド歓喜

「やったー、甲子園だー」。弘前市のはるか夢球場で22日に行われた第100回全国高校野球選手権記念青森大会決勝で、接戦を制して2年ぶりの夏の甲子園行きを決めた八学光星高。スタンドには大勢の在校生や保護者らが駆け付け、声が枯れるまで選手に大声援を送り続けた。優勝が決まった瞬間、涙ながらに喜ぶ姿も。今年こそは優勝を。スタンドからは、節目で迎える大会での東北勢初優勝を期待する声が上がった。

(福田駿、小嶋嘉文)

▲
優勝を決めた瞬間、喜びを爆発させる応援団＝22日、弘前市はるか夢球場

八回途中まで登板し、力強い投球でチームを引っ張った3年福山優希選手の父・健一さん(48)は投げている途中に気持ちが空回りすることもあったが、きょうは落ち着いて、力まずに投球できていたと目を細め、「甲子園でも本来の力を出せば自然と結果はついてくると思う」とうなずいた。六回、追加点となる本塁打を放った2年下山昂大選手

手の母・幸子さんはこの日が48歳の誕生日。前日、下山選手から「甲子園の切符をプレゼントする」という連絡が来たという。幸子さんは試合後、「本当に言った通りに実現してくれて感無量」と「孝行息子」の活躍に涙が止まらなかった。

父母の会会長を務める尾崎敦さん(53)は「東北勢で初の優勝旗をぜひ八戸に持って帰ってほしい。彼らならやれると信じている」とエールを送った。甲子園の切符をつかみ、決意を新たにしているのは、吹奏楽部でトロンボーンを担当し、応援でチームを盛り上げた1年高坂聖来さん(16)は「甲子園では球場の雰囲気を楽しみながら、さらに選手を後押ししたい」と話していた。

優勝旗を八戸へ

小林真八戸市長 高校球児憧れの舞台である甲子園への切符を勝ち取ったことを心からお祝いしたい。100回の節目の記念すべき大会で、東北勢初の優勝旗を果たし、深紅の大優勝旗を八戸へ持ち帰ってくるよ

「甲子園でも勝ち進んで」

八戸、本紙速報配布

八学光星の2年ぶりの甲子園出場決定を受け、デーリー東北新聞社は22日、市中心街や大型商業施設など八戸市内4カ所で速報を配布した。市中心街では、速報を手にした市民から「優勝おめでとう」「甲子園でも勝ち進んでほしい」など、選手への健闘をたたえたり、甲子園での活躍を期待したりする声が上がった。

テレビで試合を観戦した



八学光星の甲子園出場の一報に喜ぶ市民(左)＝22日、八戸市中心街

という70代主婦は、「最初にどんどん点を取っていきすぎだった」と興奮冷めやらぬ様子。速報で結果を知ったという30代男性は、「危ない場面もあったみたいだが、勝って良かった」と笑顔で話している。「今年こそ甲子園で優勝してほしい」とさらなる活躍を願った。

(中山瑞希)